

の内證なり。此等はゆゝしき大事の法門也。煩惱即菩提生死即涅槃と云もこれなり。まさしく男女交會のとき南無妙法蓮華經ととなふるところを、煩惱即菩提・生死即涅槃と云なり。生死の當體不生不滅とさとするより外に生死即涅槃はなきなり。普賢經云、不斷煩惱不離五欲得淨。諸根滅除諸罪。止觀云、無明塵勞即是菩提生死即涅槃。壽量品云、每自作是念、以何令衆生得入無上道速成成就佛身。方便品云、世間相常住等は此意なるべし。如此法體と云も全く餘には非ず、たゞ南無妙法蓮華經の事なり。かゝるいみじくたうとき法華經を、過去にてひざ(膝)のしたにをきたてまつり、或はあなづり(蔑)くちひそみ(蠶蹙)、或は信じ奉らず、或は法華經の法門をならうて一人をも教化し、法命をつぐ人を、惡心をもてとによせ、かくによせおこつきわらひ(譴弄)、或は後生のつとめなれども、先今生かなひがたければしばらくさしをけ、なんどと無量にいひうとめ、謗ぜしによ(依)て、今生に日蓮種々の大難にあうなり。諸經の頂上たる御經をひきく(低)をき奉る故によりて、現世に又人にさ(下)げられ用られざるなり。譬諭品に人にしたしみつくとも、人心こころにいれて不便とおもふべからずと説たり。然るに貴邊法華經の行者となり、結句大難にもあひ、日蓮をもたすけ給事